

第5章

英語講師の80%が見落としてしまう びっくりするほど簡単な発音のコツ

英語の発音

多くの日本人が1番恥ずかしいと思ってしまうことが「英語の発音」です。

「もし伝わらなかったらどうしよう？」

「ネイティブは発音が悪いと嫌がるかも」

あなたも、こう思ったことはありませんか？

英語と日本語の発音は極めて違うため、アメリカ人も日本語を正しく発音することがとても難しいです。2004年から日本語を学び、今日本に住んでいる僕でさえ、日本語の発音はあまりうまくないと自分では思います。

ですが、僕は日本人に「発音きれいですね」「発音すごく自然ですよ」とよく言われます。

僕は決して発音を真似するのが得意なわけではありません。ただ1つ、とても見逃されやすい発音のポイントを押さえたことで、僕の日本語の発音は自然だと思われるようになりました。

僕の生徒さんも、このポイントを押さえた途端、英語の発音が急に自然になります。

従来の発音レッスンが見落としていた最重要ポイント

このポイントを、ほとんどの英語講師が見落としています。かわりに「r」と「l」の発音を教えたり、「th」「v」の発音など、細かい「音」だけを教えてしまうのです。でも音1つ1つを正しく発音するよりも、発音にはもっと大事なことがあります。

それって、何でしょうか？

注意！！このセクションでは特別な用語をご紹介します。正式な言語学の専門用語ではなく、わかりやすく説明するために僕が名付けた用語です。

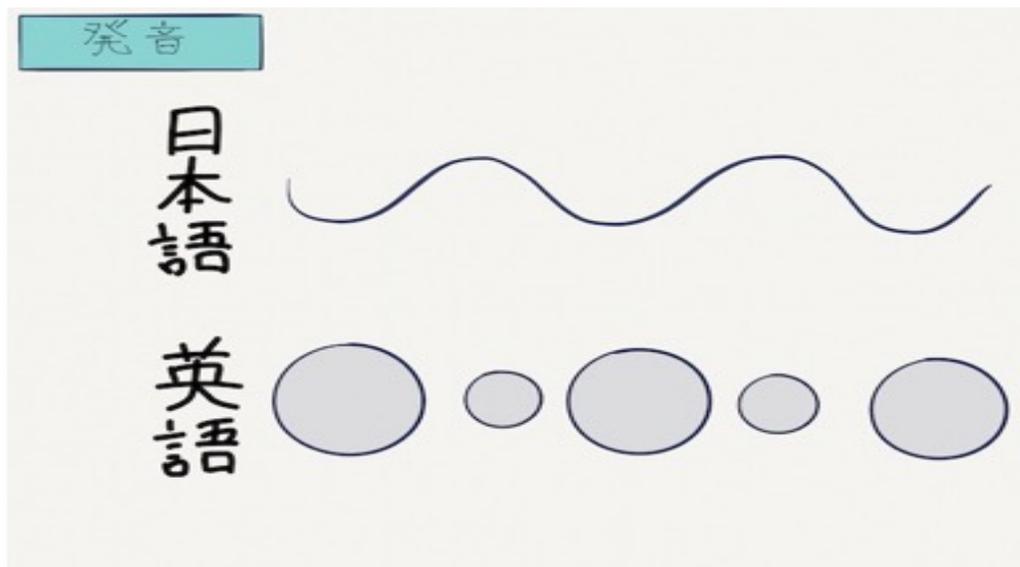
発音の基礎

リズム

言語にはそれぞれ独特なリズムがあります。相手が聞き取りやすく話すためには、英語のリズムが最も重要です。この会話のリズムによって、言葉の意味が変わり、相手に伝わるメッセージが大分違ってきます。

まずは、日本語と英語のリズムについて説明します。

日本語は「イントネーション」、英語は「強弱」



【日本語】

日本語はイントネーションに基づいた言語です。音の高さによって言葉の意味が変わるのです。

音の高さのレベルは2つあります。

「低音」と「高音」です。

例：

クモ：「雲」と「蜘蛛」

アメ：「飴」と「雨」

ハシ：「橋」と「箸」と「端」

上記の例は発音は同じなのですが、音の高さがそれぞれ違い、言葉の意味も全く異なります。

【英語】

英語は強弱に基づいた言語です。強弱による音の高さ、長さ、音量によって言葉の意味が変わるのです。強弱のレベルは2つあります。

「弱音」と「強音」です。

強音：長い、高音、母音をしっかりと発音する

弱音：短い、低音、母音はどう発音してもよい

例：

(音声) 5-1

desert (砂漠)

「desert」の「de」は「ert」より高く長い発音です。

もし「ert」が強音だったとしたら、意味は「dessert(デザート)」になります。

音はどちらも一緒ですが、強弱によって言葉の意味が変わります。

(音声) 5-2

desert (砂漠) dessert (デザート)

これがアメリカ人の日本語と日本人の英語がおかしく聞こえる理由です。アメリカ人は日本語で話す時にイントネーションではなく強弱で発音します。日本人は英語で話す時に強弱ではなくイントネーションで発音します。

発音が上手でも、強弱がないと聞き取れない

大学の頃、日本人の友達がありました。彼女は英語の単語、言い方、「r」と「l」の区別がほとんど完璧にできていました。でも問題がありました。

彼女は英語を話す時に、「強弱」を全く意識していなかったのです。

ある日、バスに乗って英語でおしゃべりしていました。僕は会話を楽しく続けようとしていたのですが・・・

なんと僕はその彼女の言っていることが、ほぼ聞き取れなかったのです！

いつも「I'm sorry?」「Can you say that again?」「What did you say?」と聞き返してしまっていました。

単語の発音があまり上手ではなくても、「リズム」がわかるようになれば、相手が聞き取りやすい英語を誰でも突然話せるようになります。

あなたの英語がちゃんと聞き取りやすくなるように、強弱の基礎をご紹介します

アメリカ英語の強弱：基礎的なルール

① 「強音」は意味の根幹：しっかりと発音する

単語の「強音」は意味を持つ音です。「母音 (a, i, u, e, o)」をしっかりと発音しないと、意味が変わってしまいます。

(音声) 5-3

例：「tomorrow (to**MO**rrow)」

「tomorrow」の「mo」の「o」は必ず、「オウ」の発音にならなければなりません。もし「エ」と発音したとしたら、相手は理解できなくなります。

② 「弱音」は実はどうでもいい：短く低音で発音する

日本人が発音を間違えやすい一番の理由は、単語を1つ1つきれいに発音しようとするからです。

アメリカ人は「強音」だけをはっきりと発音し、残りの弱音をぐちゃぐちゃに発音します。

(音声) 5-4

①にあげた例の「tomorrow」の「to」は弱音です。「to」の母音である「o」を「オウ」と発音せずに、「エ」「ア」「イ」などと発音しても、相手に通じる意味は実は変わりません。

そのくらい英語は「弱音」よりも「強音」が大事なのです。弱音の発音のポイントは、短く低音で発音することです。

注意：日本語のイントネーション同様、地域によって強弱が違うことがあります。

③ ファンクションワードは弱音、コンテンツワードは強音

普段会話をしている時に、単語を1つずつはっきりと発音しませんよね。言葉を自然に並べて話します。英語の強弱は、単語だけではなく、文章のレベルにも影響を及ぼします。

強音は意味を持つ音です。弱音は特に意味を持たない音です。したがって、文章を話す際には重要な言葉をしっかり「強音」で発音し、重要ではない言葉は「弱音」でさらっと軽く発音します。

文章の中で大事な意味を持つ言葉は**名詞、動詞、形容詞、副詞**で「コンテンツワード」と言います。

文章の中で特に大事ではない言葉は「**to, for, from**」などの**前置詞**で「ファンクションワード」と言います。

第5章

ファンクションワードが抜けたとしても、全体的な意味は伝わります。しかしコンテンツワードが抜けたら、意味が大分変わるはずですよ。

なのでコンテンツワードをしっかりと「強音」で発音して、ファンクションワードを弱音で発音します。この場合、強音は「この言葉を気にして下さい」ということを示します。

注意：「I, you, my, her」などの代名詞は名詞ですが、弱音で発音します。でももし「you」をほかの人と比較させるのであれば、「you」は文章の大事な意味になり、強音で発音します。

④例文

コンテンツワードはネイティブにはとても重要なため、強音でしっかりと発音します。逆に、ファンクションワードは軽く聞いているだけなので、弱音でさらっと軽く発音します。

例えば以下の文章では、どの言葉が強音になるのでしょうか？

(音声) 5-5

例文：「I went to school yesterday.」

まずは、コンテンツワードを見つけましょう。

コンテンツワード： 「went」 「school」 「yesterday」

次に、ファンクションワードを見つけましょう。

ファンクションワード： 「I」 「to」

「I」と「to」をほぼ発音しなくても、ネイティブにはしっかりと意味が伝わります。

短縮できる言葉はファンクションワード

ファンクションワードは弱音で発音するので、ネイティブは話す時によく短縮します。

例① 「I will go」 → 「I'll go」

(音声) 5-6

例文： 「I will go to the store」

「I」と「will」はファンクションワードなので繋げて「I'll」になりますが、「go」はコンテンツワードなのでそのまましっかり「強音」で発音します。

例② 「did you」 → 「didja」

(音声) 5-7

例文： 「Did you eat lunch?」

「did」は動詞ですが、この場合はメインの動詞「eat」の時間を表現する言葉ですからファンクションワードになり、「you」と繋げて「didja」と発音します。

このような短縮形の表現は山のようにあるので、このテキストで全ては教えられません。

ここで大事なポイントは、並んだファンクションワードは「繋がって1つの言葉になることがよくある」ということです。

「伝わる英語」を発音するために・・・

ここでご紹介したルールを意識しながら英語を話すことで、あなたの発音は確実に良くなります。

第5章

これから英語を学ぶ際、以下の3つのことに気をつけましょう。

①単語を学ぶ時、「強弱を意識する」

「強弱」が単語の意味を左右する最も大事なポイントなので、新しい単語を学ぶ時には、意味だけではなく「強弱」を意識して覚えて下さい。

②話す時は、「コンテンツワード」だけを意識する

コンテンツワードは相手が話を聞き取るのにとても重要です。ファンクションワードは気にせず、コンテンツワードを「強音」でしっかりと発音することに集中してください。

③しっかり発音しない「弱音」も大事

単語の音を1つ1つ完璧に発音するのではなく、強弱のリズムに慣れてみてください。ぐちゃぐちゃであるべき「弱音」のところをしっかりと発音すると、ネイティブは逆に聞き取りづらくなってしまいます。

今日あなたは、他では学べない英語の発音の秘訣を学びました！

ここで学んだことを意識しながら、ぜひ実際に英語を発音してみてください。

第6章を読む前に・・・

①このセクションのビデオレッスンを観てください。

②Speed speakingレッスンを受けてください。

③復習シートで復習してください。